

同時に開かれたセッションもあり、すべてを聞くことができなかったが、人口に関連する報告は若手の研究者により行われて熱のこもったものが比較的多かった。(小島 宏記)

КИHASA・UNFPA 主催 「低出生力国における人口・開発政策に関する国際シンポジウム」

韓国保健社会研究院 (KIHASA) と国連人口基金 (UNFPA) の共催で1998年5月7日 (木) ~12日 (火) の5日間 (日曜日は休会) にわたって、韓国ソウル特別市のオリンピック・パークテルで「低出生力国における人口・開発政策に関する国際シンポジウム (International Symposium on Population and Development Policies in Low Fertility Countries)」が開催された。韓国人8名 (うち2名は海外からの参加) を含む37名が参加したが、海外からの参加者には前国際人口学会会長の J. C. CALDWELL オーストラリア国立大学教授、『エイジングの経済学』(最近、佐藤隆三・嵯峨座晴夫監訳/佐藤優子訳で頸草書房から刊行された) で著名な J. H. SCHULTZ ブランダイス大学教授も含まれていた。日本からは河野稠果・麗澤大学教授が座長 (Session 4) と小川直宏・日本大学教授が討論者 (Session 1) を務められ、当研究所の阿藤副所長と小生が論文 (それぞれ Session 2 と Session 4) を発表した。アジア太平洋地域からの参加者が多数を占めていたが、ヨーロッパからも国際応用システム分析研究所 (IIASA) の W. LUTZ 博士等の人口学者が参加しただけでなく、トルコで高齢女性を支援するNGOの代表まで参加していたことは非常に興味深かった。

初日のはじめに Mo-Im KIM 厚生大臣が挨拶されたが、もともとは家族計画関連の研究で著名な研究者であった方なので、興味深い巡り合わせとなった。その後、KIHASA と UNFPA の代表による挨拶に続き、以下の6つのセッションが行われた。

- Session 1: New Population and Development Policies in the Context of Rapid Fertility Changes and the ICPD Programmes of Action
- Session 2: Consequences of Low Fertility and Policy Responses
- Session 3: Social Responses to Rapid Demographic Changes
- Session 4: Policy Issues of Population Aging
- Session 5: Programme and Policy Challenges
- Session 6: Synthesis and Conclusions

なお、阿藤副所長は “Countries with Substantially Below Replacement : Japan”, 小生は “Aging and Social Welfare Policies-Health Care and Income Maintenance Programme: Japanese Experience” と題された論文を発表した。また、同シンポジウムの概要報告書 (Proceedings of International Symposium on Population and Development Policies in Low Fertility Countries) が KIHASA の Symposium Report 98-01としてすでに刊行されているので、詳細については同冊子を参照されたい。

(小島 宏記)